

3. タイワンスジオの捕獲等

3-1. 概要

3-1-1. 目的

平成 31 年度までは、今後の防除等を円滑に進行するための生息範囲の調査、防除手法の開発等が行われてきた。また、指針、外来種リスト、行動計画が策定され対策を推進する上での基盤整備が図られた。

タイワンスジオは外来種リストにおいて「重点対策種」に指定され、重点的に防除を実施する必要がある。本業務は、行動計画及び「タイワンスジオ防除計画」に定められた防除目標達成のため、沖縄島においてわなによる捕獲及び排除を行うものである。

3-1-2. 防除の目標（防除計画を参照）

沖縄県外来種対策行動計画に基づく防除目標のカテゴリー

→ **目標 D 拡散の防止**（やんばる地域への拡散防止）

◎ 保全上重要な地域等への侵入・拡散の防止

すでに沖縄島中部を中心に定着しており、私有地や米軍基地を含むあらゆる環境に分布していると考えられている。さらに、移動能力が高いため、自力による拡散や狭い隙間を好む習性から、建築資材や車輛等によって他地域への拡散が懸念される。そこで、やんばる地域を含む他地域への拡散リスクを低減させることを目標とする。

3-1-3. 対策の方針（防除計画を参照）

(1) 未定着地域への拡散リスクの低減

生息地域に所在する資材（材木や建築資材等）の集積地およびその周辺において、密度低下を目的とした捕獲を実施する。特に、やんばる地域に資材等を運搬する拠点の把握と周辺での捕獲を実施する。また、自力での北上を防止するために、防蛇フェンスの検討を行う。

(2) 保全上重要な地域への侵入監視

ヤンバルクイナやケナガネズミをはじめとする希少種が多く生息するやんばる地域への侵入を監視する。タイワンスジオは隠ぺい性が強く、ルートセンサス等による定量的な監視モニタリング調査は現実的ではないため、目撃情報を継続的に収集する。また、やんばる地域への北上の監視のために、トラップによるモニタリングも実施する。

(3) 普及啓発

ホームページ、イベント、チラシ配布等を通して防除の目的を県民へ周知するとともに、生息情報の収集や捕獲に向けた協力などが得られるよう、関係機関とも協力して取り組む。

(4) 捕獲手法等の改良

効果的な防除を実施するため、新たに得られた知見や技術、有識者等の意見を踏まえて捕獲手

法等の改良を行う。

3-1-4. 実施項目

- ① 定着地域での防除
 - ・恩納村 4 地区（太田、瀬良垣、安富祖、喜瀬武原）における捕獲作業
- ② 拡散の防止及び分布調査
 - ・うるま市州崎及び沖縄市海邦町における捕獲作業
 - ・海邦町埋立地における事業所の囲い込み試験
 - ・名護市東江地区での対応
- ④ 捕獲手法等の改良
 - ・ケージ内誘引試験方法

3-2. 定着地域での防除

3-2-1. 目的

定着地域である恩納村において、タイワンスジオの防除を行った。

恩納村にはタイワンスジオが高密度に生息しており、特に瀬良垣から喜瀬武原は、タイワンスジオの北限地域であると考えられる（図 3-2-1.1）。これらの地域においてタイワンスジオの個体密度の低下を目的として、令和 2 年度からトラップを設置し捕獲作業を行っており（図 3-2-1.2）、今年度も継続して防除を行った。

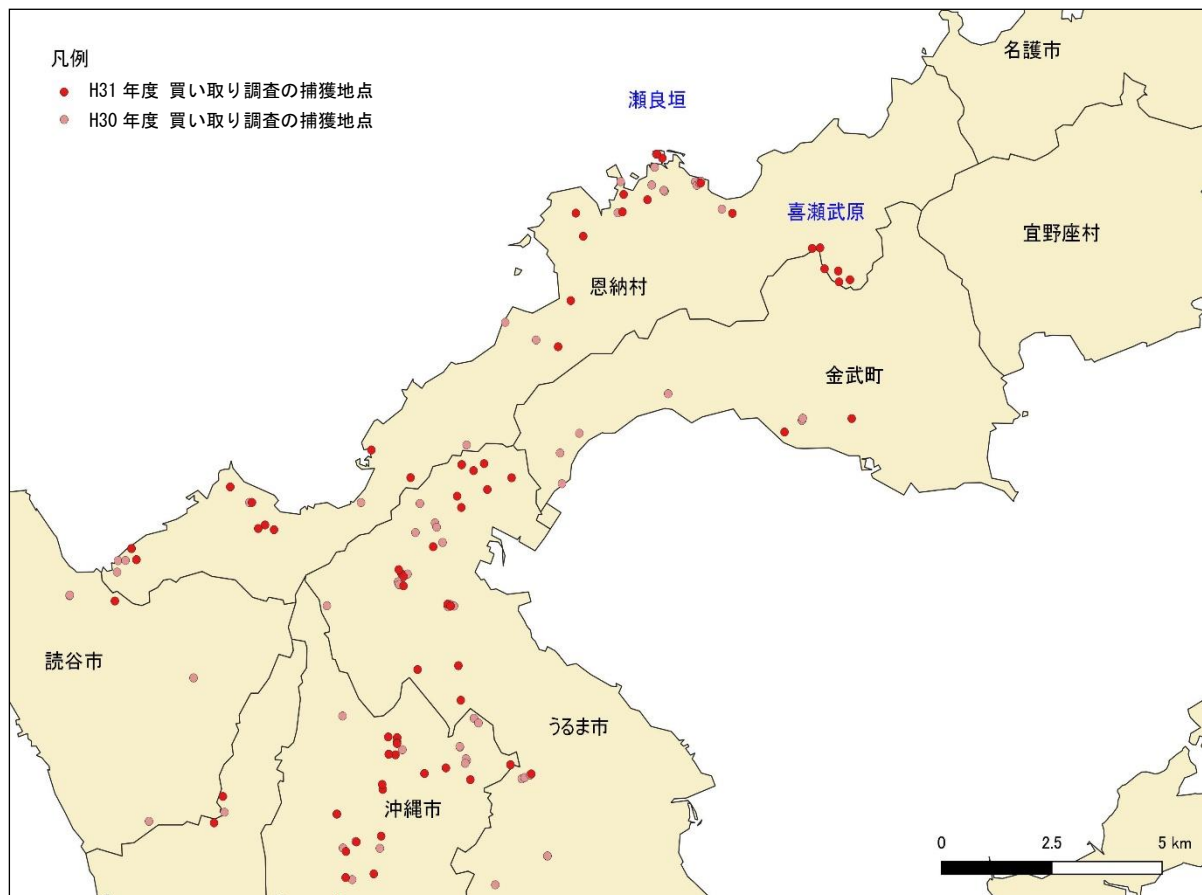


図 3-2-1.1 買取調査によるタイワンスジオの捕獲地点（平成 30～31 年度）

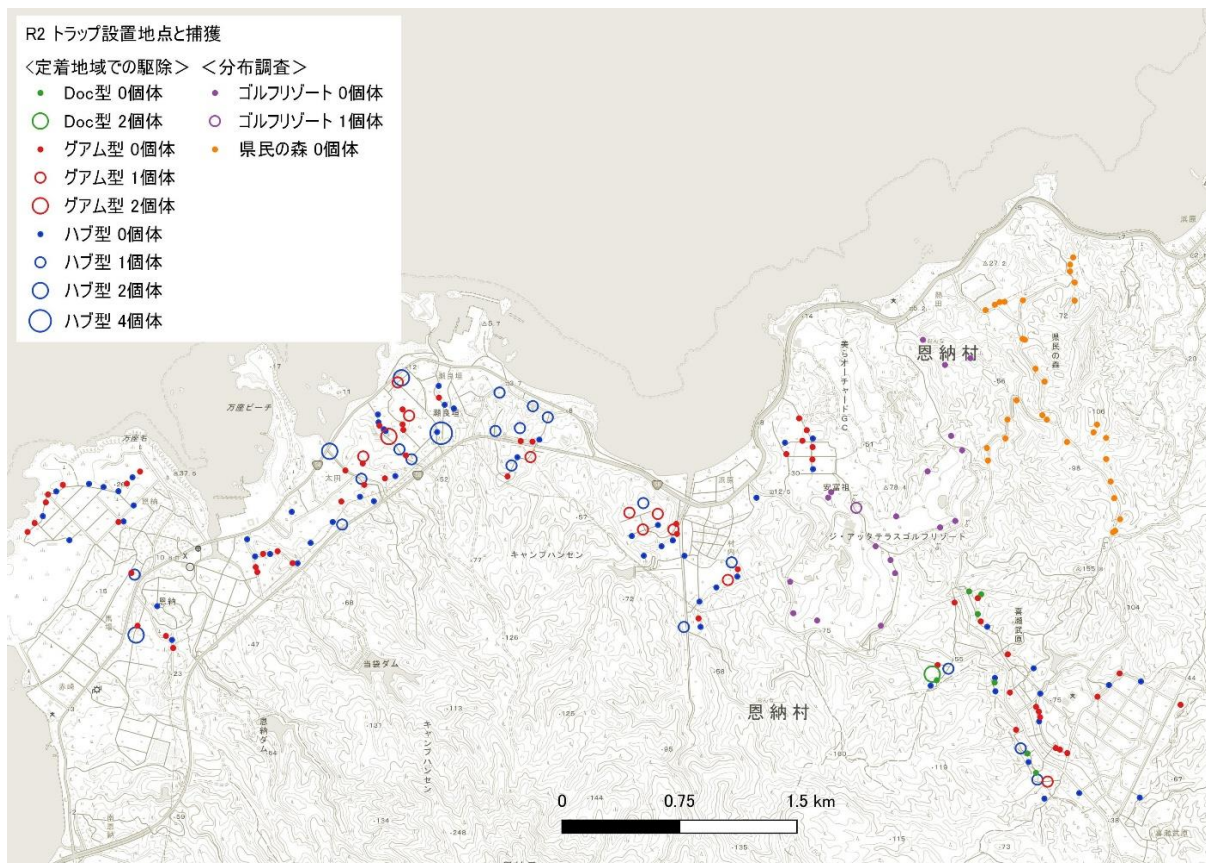


図 3-2-1.2 令和 2 年度のタイワンスジオ捕獲地点（恩納村）

3-2-2. 捕獲対象地域と設置地点

恩納村におけるトラップ設置地点を図 3-2-2.3～6 に示す。

今年度のトラップ設置予定台数は、1 メッシュ（約 1km²）あたり 25 台として、16 メッシュの計 400 台であり、年間 6 回以上の点検である。期間を 2 期に分け、前期 233 台、後期 234 台のトラップを稼働させ、延べ 467 台分のトラップを設置した。

トラップは、恩納村 4 地区（太田、瀬良垣、安富祖、喜瀬武原）に 233～234 台設置した。これらの設置地点は、昨年度までの捕獲結果及び恩納村の各区長への聞き取り調査を参考にして設定した。また、今年度は、恩納村の特に生息密度が高いと予想される地域にも集中的にトラップを設置し、より効率的な捕獲を試みた（図 3-2-2.4～6 青矢印）。

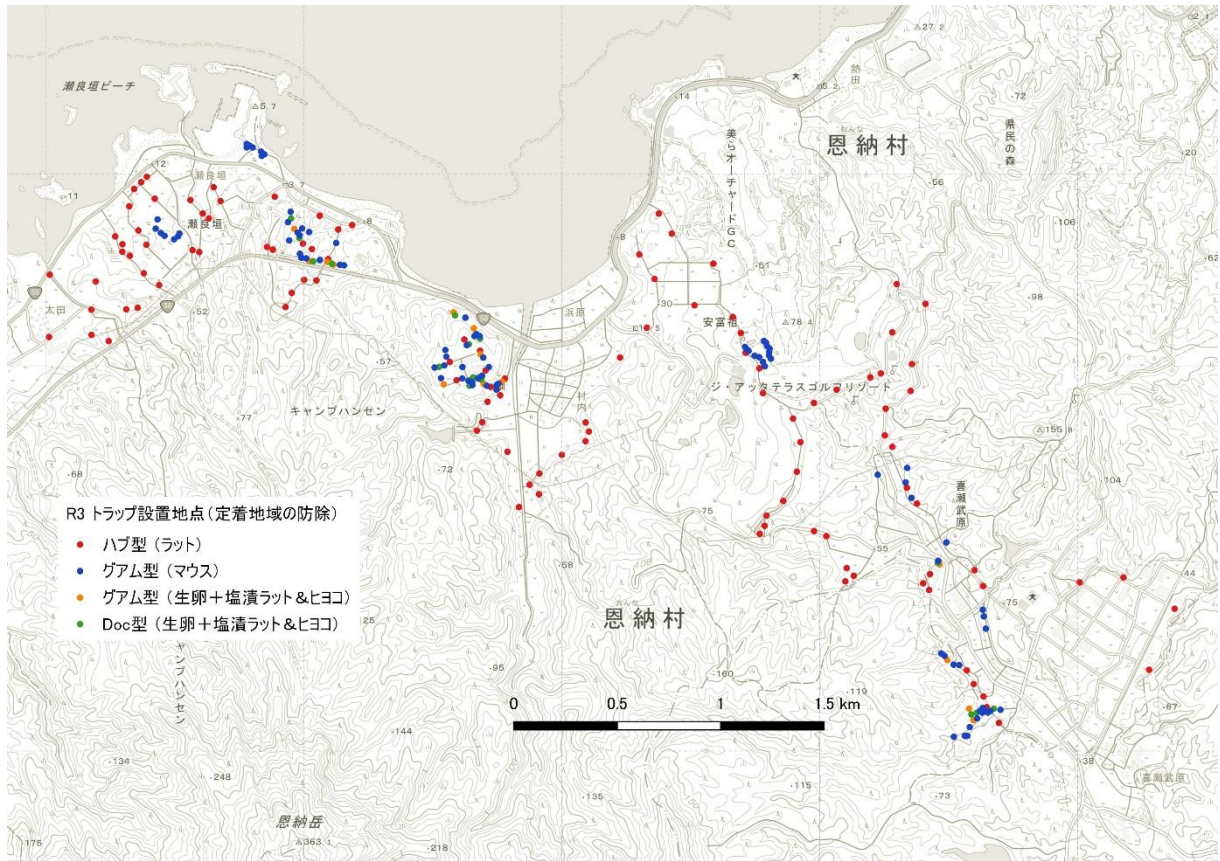


図 3-2-2.3 恩納村におけるトラップ設置地点 (全体)



図 3-2-2.4 恩納村におけるトラップ設置地点 (太田と瀬良垣)

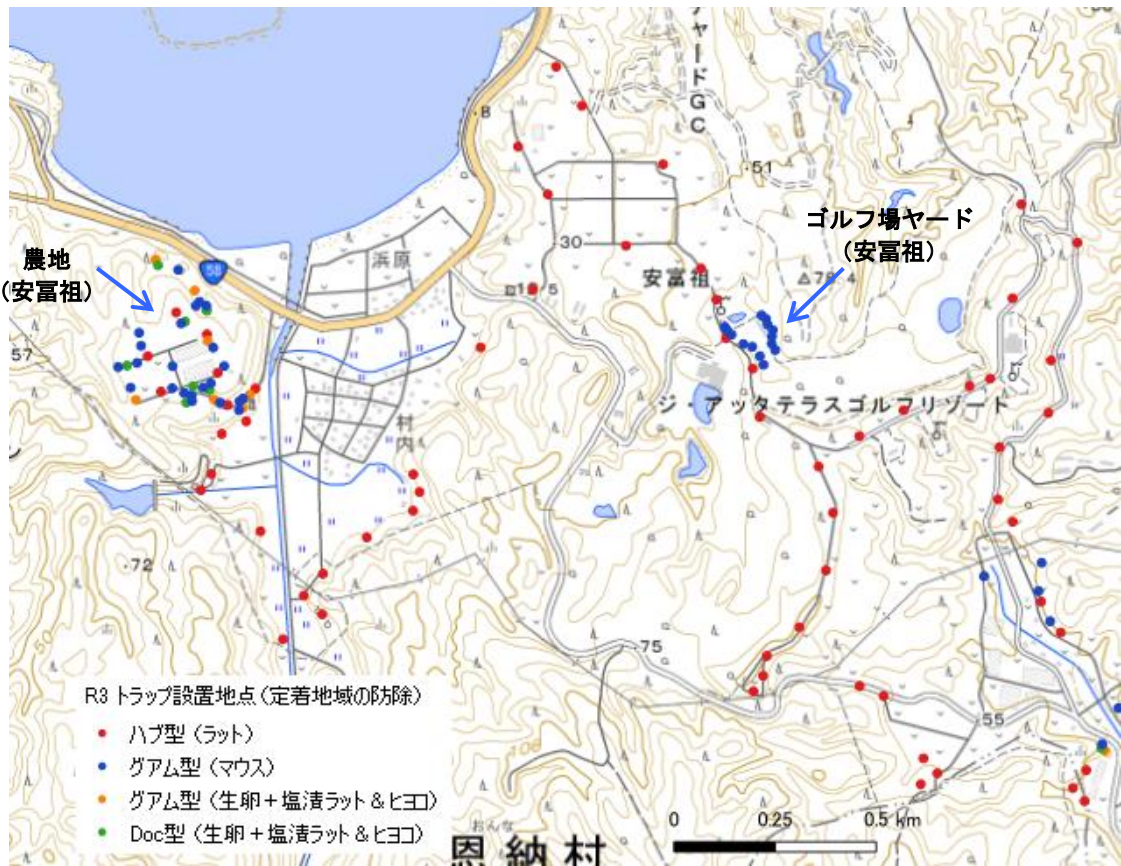


図 3-2-2.5 恩納村におけるトラップ設置地点 (安富祖)

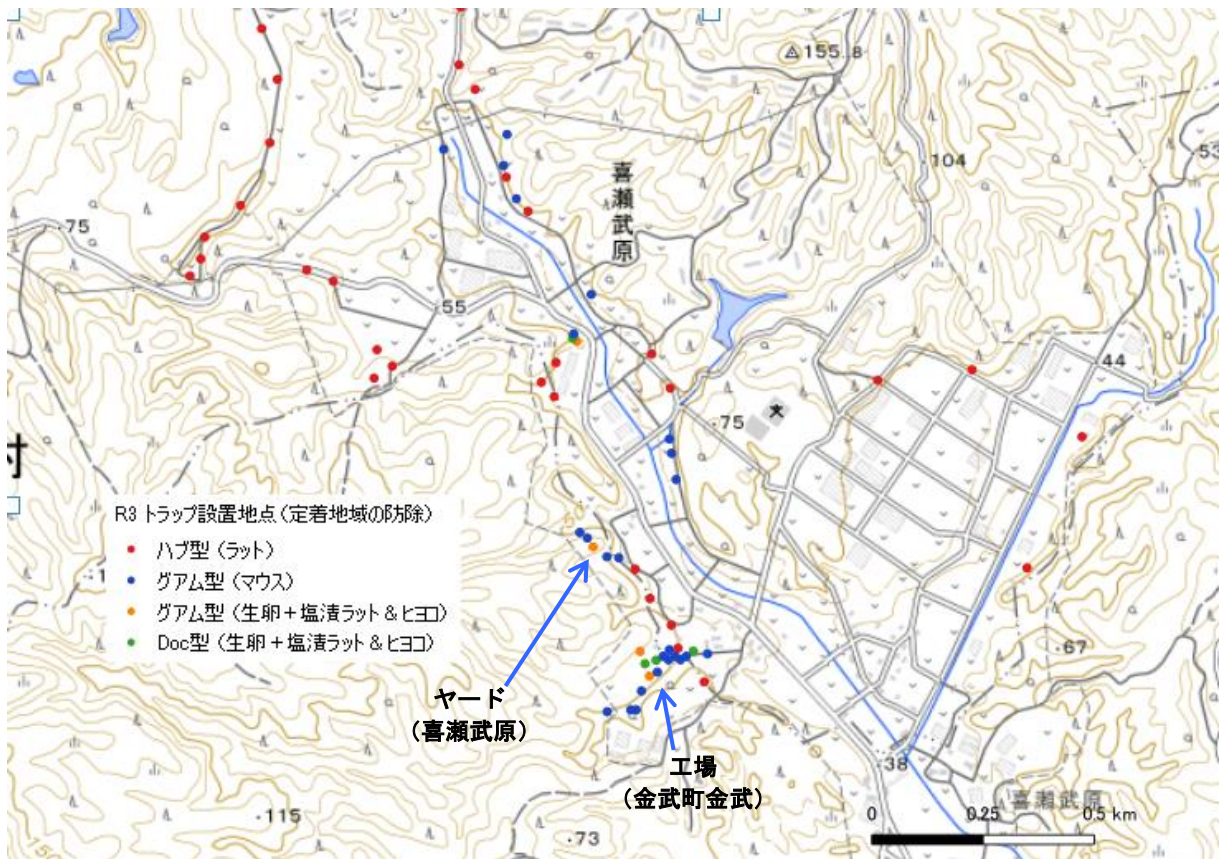


図 3-2-2.6 恩納村におけるトラップ設置地点 (喜瀬武原)

3-2-3. 捕獲方法

タイワンスジオの捕獲には、改良ハブ型トラップ（以下、「ハブ型」という。）、ゴム型トラップ（以下、「ゴム型」という。）、Doc型トラップ（以下、「Doc型」という。）の3種類を使用した。

ハブ型は、恩納村の太田、瀬良垣、安富祖、喜瀬武原において、トラップ設置間隔を25m以上離して設置した。ゴム型とDoc型は、タイワンスジオが高密度に生息すると予想される地域や、運搬に伴いタイワンスジオが運ばれてしまうことが懸念される地域（建築資材置場、トラックヤードなど）に集中して設置した。

誘引餌は、生餌であるラットとマウスを用いた。また、生餌以外の誘引餌として「生卵、塩漬けラット、塩漬けヒヨコ」を混合したものを用いた。トラップの点検頻度は、2週間に1回とし、5～9月を前期（6回点検）、9～12月を後期（6回点検）として継続してトラップを設置した。

各トラップの誘引餌別の設置台数や誘引餌の種類を表3-2-3.1に示す。

表 3-2-3.1 恩納村における各トラップと誘引餌の種類

設置場所	わな種	誘引餌	設置期間	設置台数
恩納村	ハブ型	ラット	5月～11月	114
	ゴム型	マウス	6月～12月	90
		生卵+塩漬ラット&ヒヨコ		15
		生卵+塩漬ラット&ヒヨコ		15
	Doc型	生卵+塩漬ラット&ヒヨコ		15
計			234	

(1) ハブ型

ハブ型は、基本的に既存のハブトラップの仕組みを利用している。既存ハブトラップからの改良点は、①トラップサイズ的大型化（内寸 27.7cm×61.9cm×15.5cm）（図 3-2-3.1 A）、②ヘビ侵入口であるロート先端隙間の確保（φ15mm）（図 3-2-3.1 B）、③マウスからラットへの誘引剤の変更、④侵入口とラット飼育室の間に設けた仕切り板などが上げられる（図 3-2-3.1 C）。

さらに、今年度はハブ型のラットの餌の収納方法を改良した。昨年度は、設置期間内にラット餌（市販ドッグフード）にカビが生えることがあり、ラットの摂餌量にばらつきが生じた。今年度は、これを防ぐため餌がトラップ底に接触せず、さらに餌収納空間にラットが侵入できないように構造変更を行った。これにより、昨年度まで 4% だったラットの死亡率が 1% 以下となった。設置台数は合計 114 台で、令和 3 年 5 月に設置を行った。

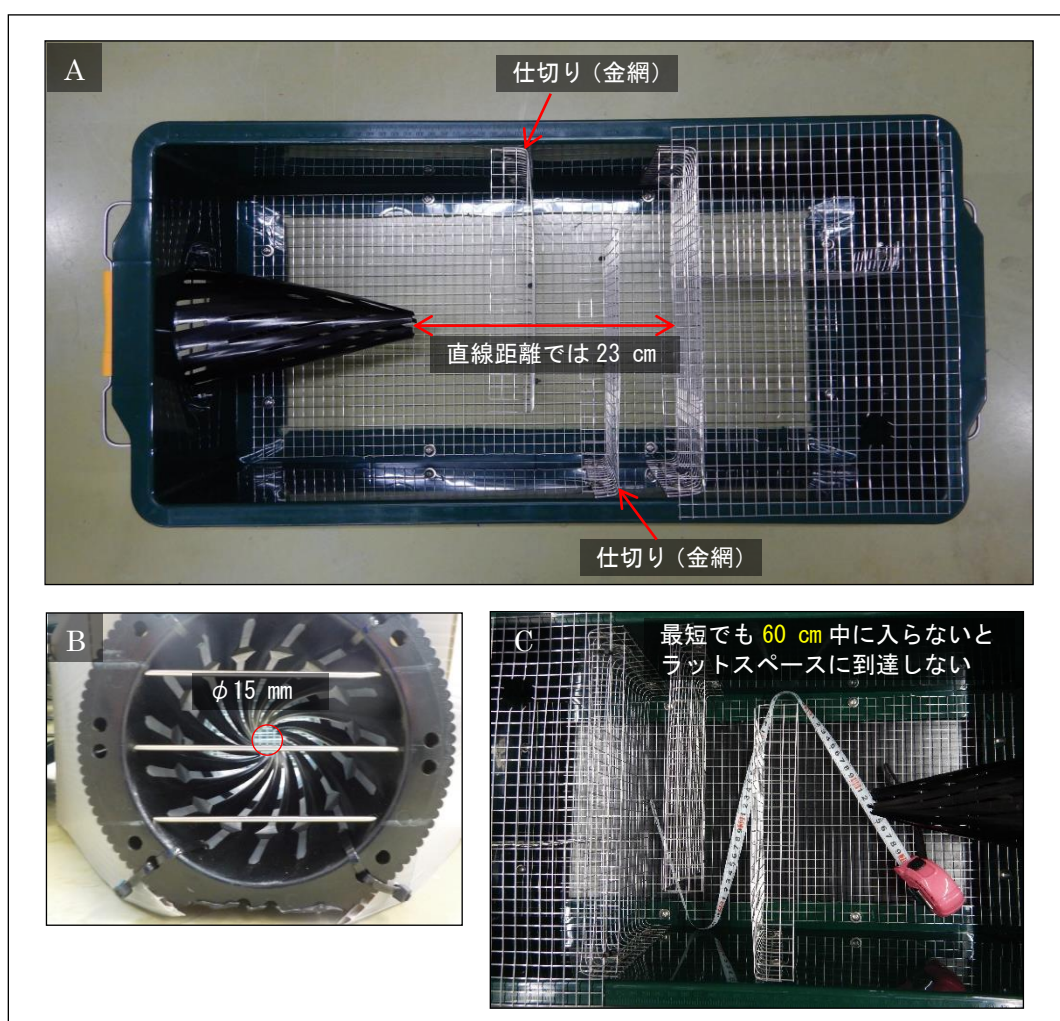


図 3-2-3.1 ハブ型の構造

点検は2週間に1回とし、ラットの給水及び餌の補充、へビ類が捕獲されていた場合は記録・回収を行った。設置環境は主に林縁とし、ラットの飼育環境を考慮してトラップには直接日光が当たらないように設置した（図3-2-3.2）。

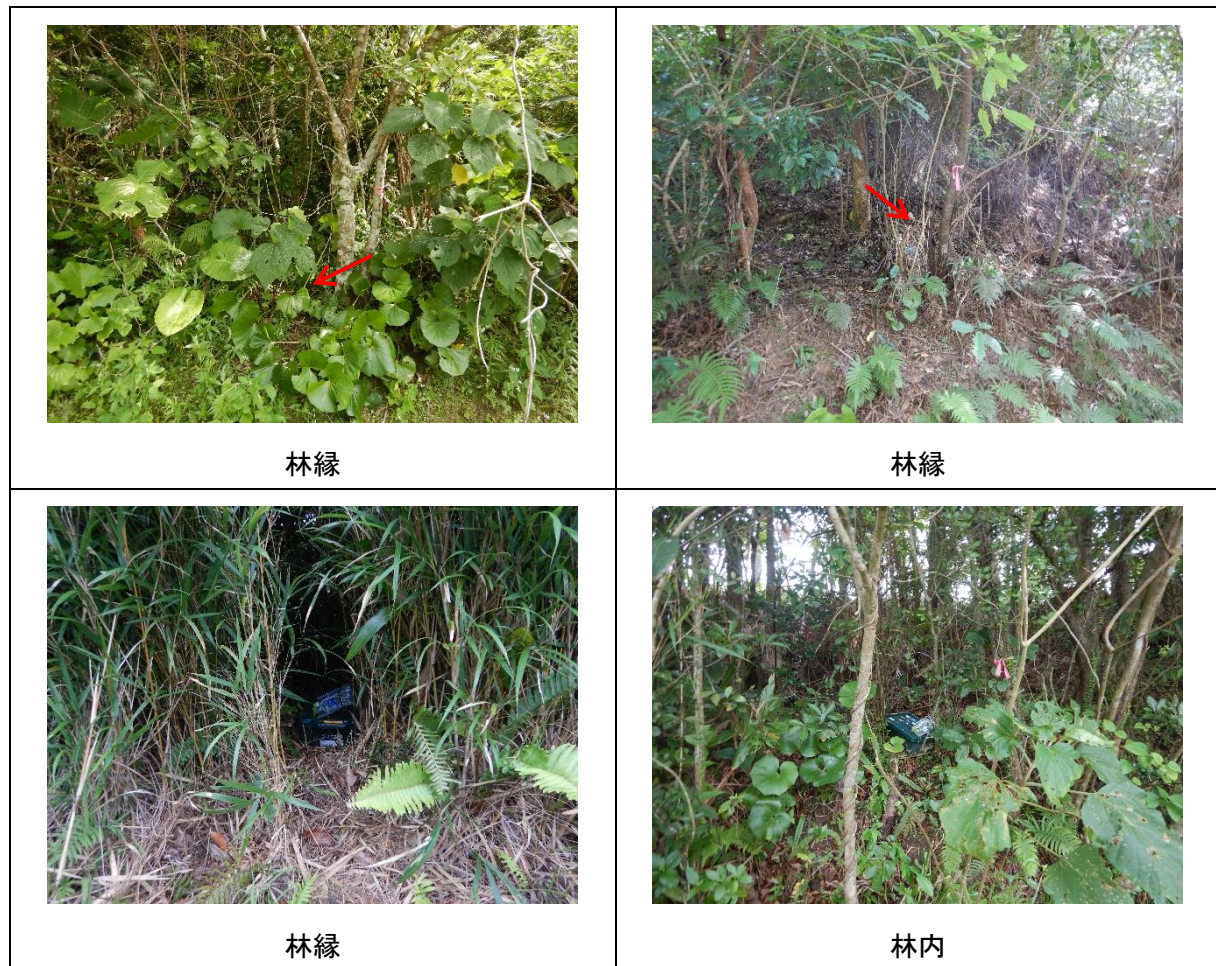


図3-2-3.2 ハブ型トラップの設置状況と環境

(2) グラム型

グラム型は、グラムでミナミオオガシラ対策に用いられているステンレス製の筒形トラップを改良したもので、木の幹やフェンス等に設置する。昨年度はプラスチック製（トリカルネット）のもの（全体幅約 65cm）と金属メッシュ製（全体幅約 80cm）のもの両方を使用した。強度や耐久性の観点から今年度はすべて金属メッシュ製のものを使用した。基本構造は、筒型の一方向に入口、もう一方に誘引餌を設けた形状で、入口はフラップ式扉（φ4cm）である。また、上面及び側面には、雨除け・日除けのためプラダンシートを取り付けた（図 3-2-3.3）。

誘引餌はマウス（ハツカネズミ）を使用し、全体幅は約 85 cm、入口からマウスまでの距離は約 58cm である（以下、トラップ名称を「グラム型（マウス）」という。）。設置場所は、恩納村瀬良垣、安富祖、喜瀬武原（一部金武町金武を含む）の連続分布の北限と考えられるラインとし、昨年度調査で捕獲数が特に多かった場所や拡散リスクが高い場所を中心に、資材置場（ヤード）や農地、工場などに集中的に設置した（図 3-2-3.4）。設置台数は合計 90 台で、令和 3 年 6 月に設置を行った。設置環境は主に林縁とし畑や作業小屋周辺等にも設置した。また、設置高は 1m 前後とした（0.4m～1.6m、平均 0.8m）。

点検は 2 週間に 1 回とし、捕獲動物の確認及びマウスの餌交換等を行った。

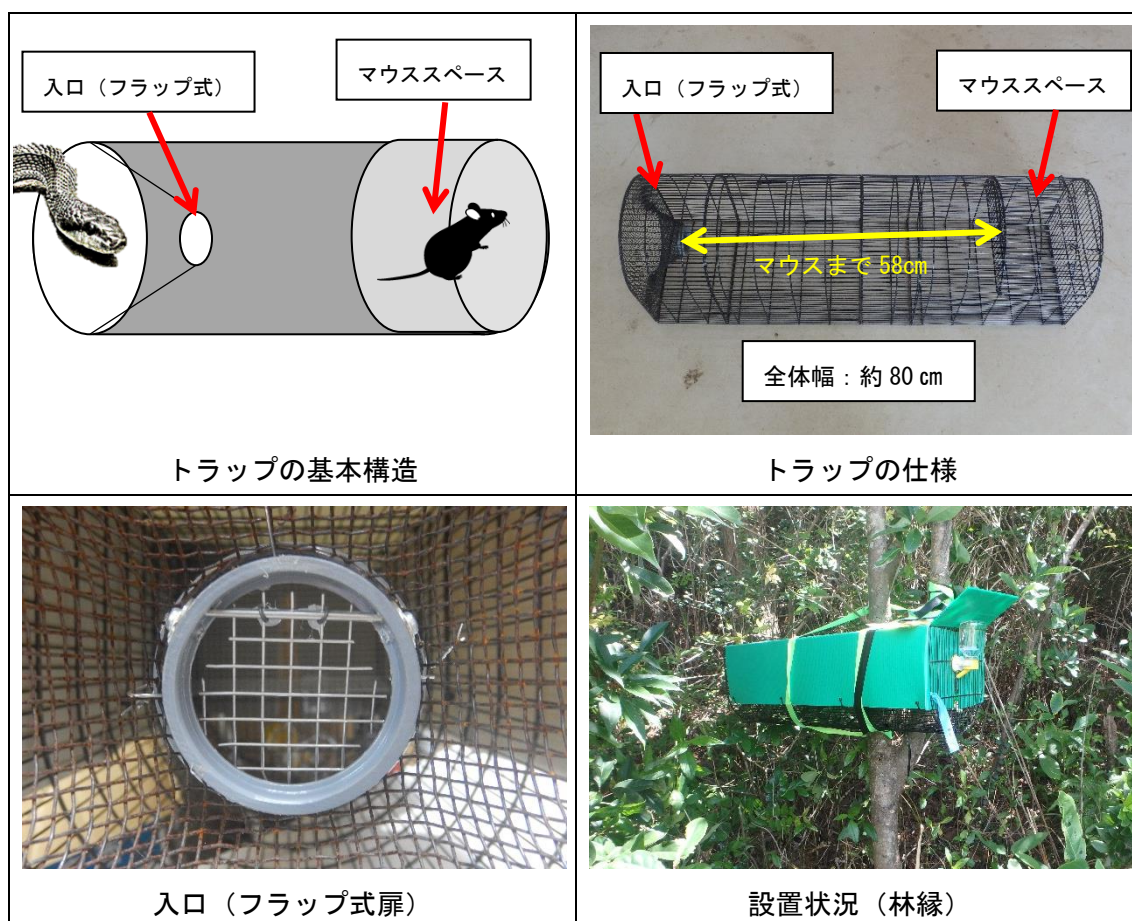


図 3-2-3.3 グラム型（マウス）の構造と仕様



図 3-2-3.4 グラム型（マウス）の主な設置場所

(3) グラム型（生卵）及び Doc 型（生卵）

生きたラットやマウスを使用したトラップはコストがかかり、設置台数や設置環境も限られる。グラムにおけるミナミオオガシラ対策では毒餌として冷凍マウスが使用されており、またやんばるのマンガース対策事業では塩豚とゆで卵を用いた Doc（踏み板式捕殺わな）でアカマタ等のヘビ類が捕獲されていることから、生き餌を使用しないトラップによる捕獲の可能性もあると考えられる。そこで、今年度は、誘引餌として生きているラットやマウスを使用しないトラップとして、グラム型と Doc 型の 2 種類を設置した。

いずれのトラップも、誘引餌として生卵のほか塩漬けのラットとヒヨコを使用した（以下、トラップ名称を「グラム型（生卵）」、「Doc 型（生卵）」という。）。生卵はトラップ 1 台あたり 2 個を用いた。また、ラット及びヒヨコは爬虫類等の冷凍餌として市販されているもので、トラップ 1 台あたりラット L サイズ（頭胴長 20cm 前後）の 1/4 頭相当とヒヨコ 1 羽相当を用いた。

設置場所はグラム型（マウス）と同様、恩納村瀬良垣、安富祖、喜瀬武原（一部金武町金武を含む）の北限ラインとし、農地や工場の林縁などに集中的に設置した。設置台数はそれぞれ 15 台（合計 30 台）で、令和 3 年 6 月に設置を行った。

点検は 2 週間に 1 回捕獲動物の確認を行い、誘引餌は 4 週間に 1 回交換した。

各トラップの構造と仕様を以下に示す。

① グラム型（生卵）

グラム型（マウス）と基本構造は同じであるが、全体幅を半分（約 40cm）とした（図 3-2-3.5）。入口と誘引餌の間は、下部に約 5cm の隙間を空けて金網で仕切り、入口から誘引餌までの到達距離を約 30cm とした。グラム型（マウス）と同様、雨除け・日除けのためプラダンシートを取り付けて林縁の樹の幹等に設置し、設置高は 1m 前後とした（0.3m～1.4m、平均 0.8m）。

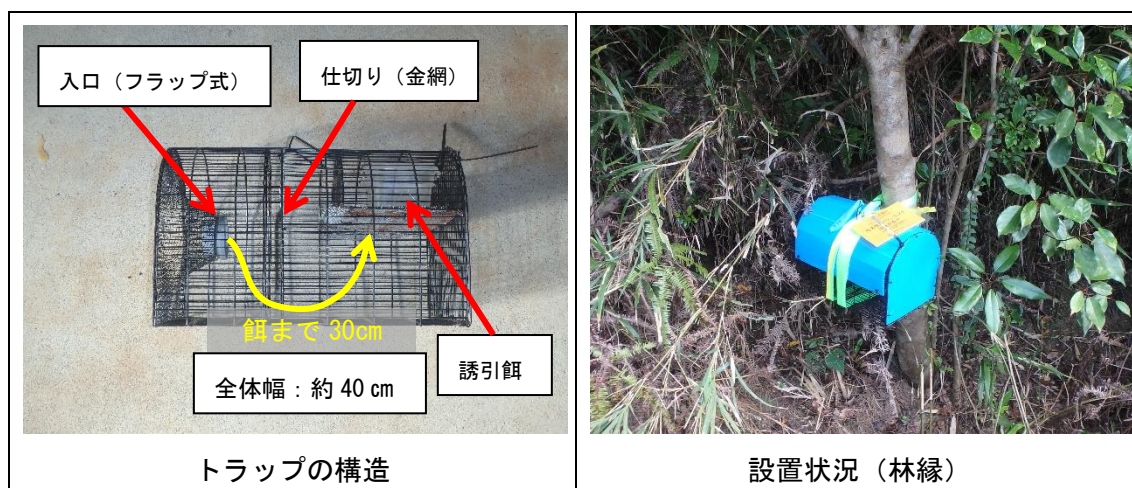


図 3-2-3.5 グラム型（生卵）の構造と設置状況

② Doc 型（生卵）

Doc はニュージーランドで開発された踏み板式の捕殺わなで、対象種により大きさが異なる（図 3-2-3.6）。野外に設置する際は、混獲の発生リスクの低減や、一般人による誤操作を防止するため、箱の中に Doc を入れて地面に固定する。今回は Doc200 をプラスチック製の専用箱（白色）に入れて使用した（図 3-2-3.7）。

専用箱の大きさは縦 43cm×横 28cm×高さ 24cm である。入口側の面は金網とし、マンガース等の混獲防止のため入口の大きさは約 2cm×6cm とした。また、専用箱の内部には侵入した動物が確実に踏み板に触れるよう誘導用の金網が踏み板手前に設けられている。

本トラップは、体の一部が踏み板に触れれば捕殺されるため、入口から誘引餌までの距離を考慮する必要がなく、コンパクトな大きさに設計することが可能である。また、昨年度の恩納村・名護市におけるヘビ類捕獲結果が示すように、入口がオープン（開放）な形状なため、構造的にヘビ類トラップとしての有効性は高いと考えられる。しかし、グアム型のように樹の幹等に設置することはできず、混獲による在来種捕殺のリスクがある。



図 3-2-3.6 Doc とその種類

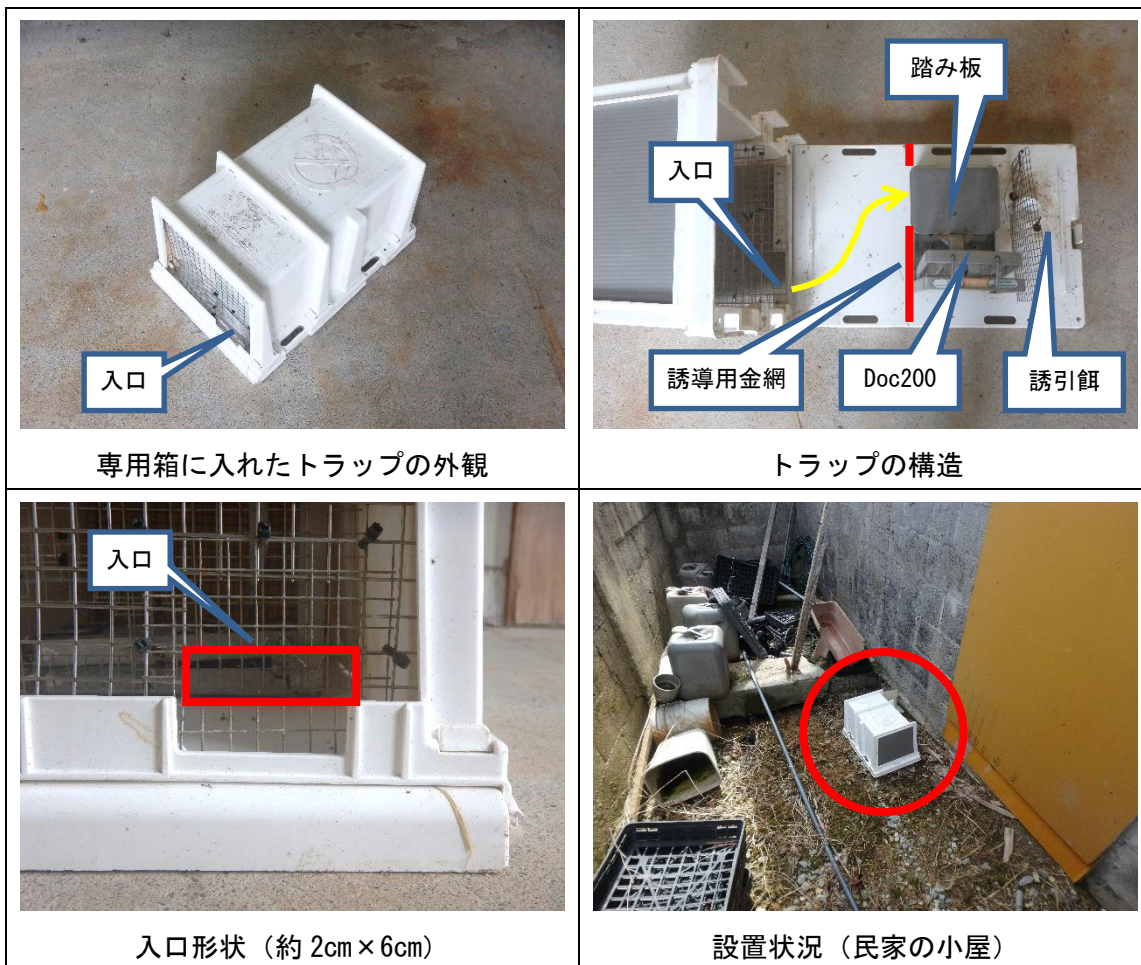


図 3-2-3.7 Doc 型 (生卵) の構造と設置状況

3-2-4. 結果および考察

恩納村4地区におけるヘビ類の捕獲結果を表3-2-4.1に示す。タイワンスジオは、ハブ型で10個体捕獲され、CPUEは0.05であった。グアム型とDoc型ではタイワンハブは捕獲されなかった。

他の混獲物として、ハブがハブ型で1個体、アカマタがグアム型（マウス）で1個体、Doc型（生卵）で2個体捕獲された。

表3-2-4.1 恩納村における各トラップの設置台数と誘引餌の種類

設置場所	わな種	誘引剤	設置期間	設置台数	TD	タイワンスジオ		タイワンハブ		ハブ		アカマタ		計	
						捕獲数	CPUE	捕獲数	CPUE	捕獲数	CPUE	捕獲数	CPUE	捕獲数	CPUE
恩納村	ハブ型	ラット	5月~11月	114	18,752	10	0.05	0	0.00	1	0.01	0	0.00	11	0.06
	グアム型	マウス	6月~7月	90	15,388	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.01	1	0.01
		生卵+塩漬ラット&ヒヨコ		15	1,440	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	Doc型	生卵+塩漬ラット&ヒヨコ		15	1,440	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	0.14	2	0.14
	計				234	37,020	10	0.03	0	0.00	1	0.00	3	0.01	14

※CPUEは100TDあたりの捕獲効率を示す。グアム型（生卵）及びDoc型（生卵）のTDは1点検あたり8TD発生するものとした。

恩納村におけるタイワンスジオのCPUEの月別変化を図3-2-4.1に示す。タイワンスジオは今年度ハブ型のみで捕獲されたため、ハブ型のみの結果を示した。昨年度の結果はハブ型、グアム型を示した。

昨年度、ハブ型、グアム型ともにCPUEは7月をピークとして、8~10月は横ばいであり、11月はやや減少した。今年度は、昨年度と比べCPUEは減少し、最も高かった7月でも0.09となり、昨年度ハブ型の11月のCPUEを下回った。

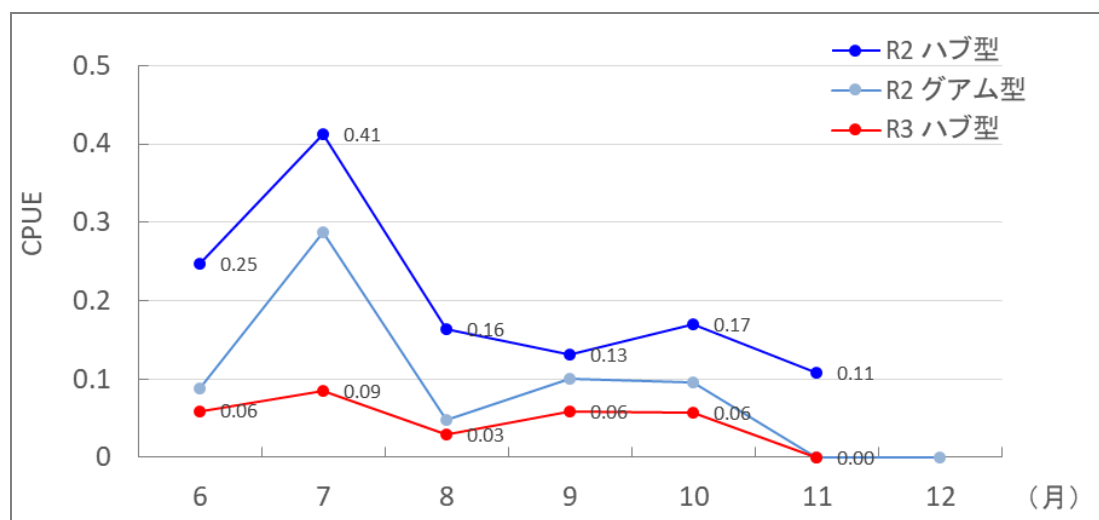


図3-2-4.1 令和2~3年度のタイワンスジオの捕獲の月別変化（恩納村）

次に、タイワンスジオの捕獲地点を図3-2-4.2、地区別のCPUEを表3-2-4.2に示す。

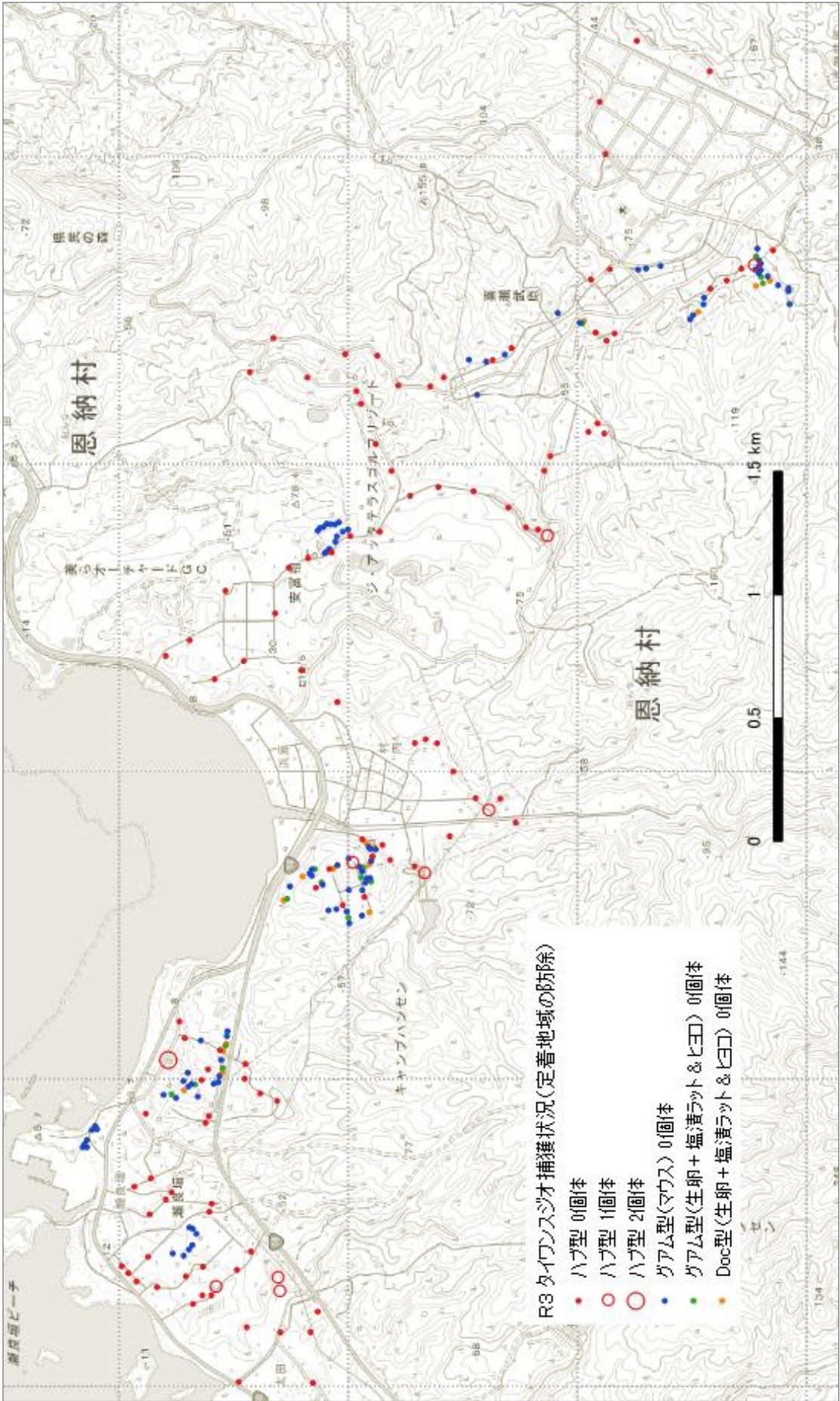


図 3-2-4.2 令和3年度のタイフンスジオの捕獲地点（恩納村）

今年度トラップを設置した4地区（太田、瀬良垣、安富祖、喜瀬武原）は各地区で2～3個体ずつタイワンスジオが捕獲された。一方、昨年度は瀬良垣で14個体捕獲され集中していた（全体の約52%）。CPUEについて見ると、今年度は全地区で0.05と昨年度0.21の1/4程度であった。地区別に見てもどの地区のCPUEも昨年度と比べ低く、特に瀬良垣ではCPUEは1/8程度であった。なお、太田区のCPUEは0.16と他の地区（0.04～0.05）に比べ3倍程度高かったものの、この地区に設置しているトラップは8台と他の地区よりも少ない。トラップ設置台数を他の地区と同程度にした場合、CPUEが低下することが予想される。

表 3-2-4.2 恩納村各地区におけるタイワンスジオの捕獲状況（令和2～3年度）

区分	わな種	設置場所	地区	設置期間	設置台数	TD	タイワンスジオ	
							捕獲数	CPUE
R2年度	ハブ型	恩納村	恩納	6月～11月	12	2,115	3	0.14
			太田		13	2,154	4	0.19
			瀬良垣		20	3,520	14	0.40
			安富祖		17	2,688	3	0.11
			喜瀬武原		15	2,524	3	0.12
			計		77	13,001	27	0.21
R3年度	ハブ型	恩納村	恩納	6月～12月	-	-	-	-
			太田		8	1,288	2	0.16
			瀬良垣		33	5,460	3	0.05
			安富祖		48	7,904	3	0.04
			喜瀬武原		25	4,100	2	0.05
			計		114	18,752	10	0.05

※CPUEは100TDあたりの捕獲効率を示す。グアム型（生卵）及びDoc型（生卵）のTDは1点検あたり8TD発生するものとした。

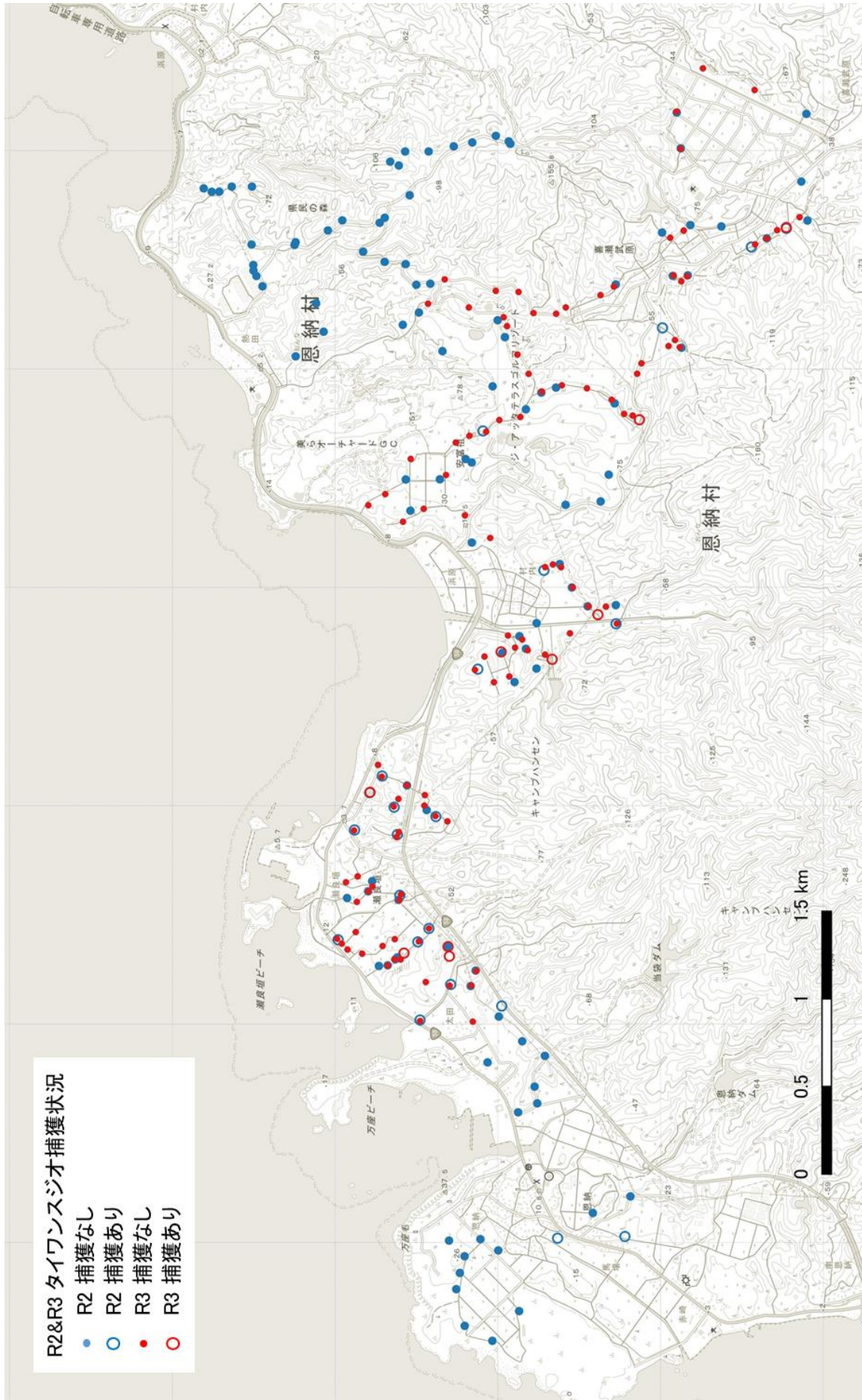


図 3-2-4.3 令和 2 年度（青色）と令和 3 年度（赤色）のハブ型の設置地点と捕獲地点

今年度捕獲されたタイワンスジオの頭胴長などの測定値を表 3-2-4. 3、昨年度と比較した頭胴長などの測定値を表 3-2-4. 4 に示す。

今年度捕獲されたタイワンハブは雄が6個体、雌が4個体であった。頭胴長は雄が1035～1242mm、雌が1200～1532mmであった。体重は雄が196～448g、雌が337～759gであった。肥満度は雄が0.18～0.28、雌が0.10～0.25であった。

表 3-2-4.3 タイワンスジオの測定値（恩納村）

わな種	No.	捕獲日	地区	捕獲地点	性別	頭胴長 (mm)	尾長 (mm)	体重 (g)	肥満度 =体重/頭胴長 ³ (kg/m ³)
ハブ型	1	2021/6/17	太田	ON004	雌	1205	340	337	0.19
	2	2021/6/17	安富祖	ON044	雄	1035	279	196	0.18
	3	2021/7/15	瀬良垣	ON010	雄	1242	369	378	0.20
	4	2021/7/15	瀬良垣	ON029	雄	1211	337	315	0.18
	5	2021/7/29	安富祖	ON051	雌	1532	330	357	0.10
	6	2021/8/27	喜瀬武原	ON102	雌	1453	367	759	0.25
	7	2021/9/22	瀬良垣	ON029	雌	1200	324	357	0.21
	8	2021/9/24	喜瀬武原	ON080	雄	1139	301	312	0.21
	9	2021/10/7	太田	ON005	雄	1051	312	266	0.23
	10	2021/10/7	安富祖	ON055	雄	1175	351	448	0.28

表 3-2-4.4 令和2年度と令和3年度のタイワンスジオの測定値の比較

区分	雌雄	個体数	頭胴長			体重			肥満度 = 体重/頭胴長 ³		
			平均 (mm)	最大 (mm)	最小 (mm)	平均 (g)	最大 (g)	最小 (g)	平均 (kg/m ³)	最大 (kg/m ³)	最小 (kg/m ³)
R2年度	全体	27	1204	1520	780	418	951	107	0.23	0.36	0.17
	雄	14	1250	1520	780	464	796	171	0.23	0.36	0.18
	雌	13	1143	1510	810	368	951	107	0.22	0.29	0.17
R3年度	全体	10	1224	1532	1035	373	759	196	0.20	0.28	0.10
	雄	6	1142	1242	1035	319	448	196	0.21	0.28	0.18
	雌	4	1348	1532	1200	453	759	337	0.19	0.25	0.10

次に、ヘビ類以外の混獲結果を表 3-2-4.5 に示す。

ハブ型ではマンガース 2 個体、ハツカネズミ類 2 個体、不明 2 個体が混獲された。グアム型（マウス）ではマンガース 1 個体、クマネズミ 7 個体が混獲された。グアム型（生卵）ではマンガース 2 個体が混獲された。Doc 型（生卵）ではクマネズミ 1 個体、ジャコウネズミ 4 個体が混獲された。

表 3-2-4.5 混獲結果

設置場所	わな種	誘引剤	設置期間	設置台数	TD	マンガース	クマネズミ	ハツカネズミ	ジャコウネズミ	不明	計
恩納村	ハブ型	ラット	5月～11月	114	18,752	2	0	2	0	2	6
	グアム型	マウス	6月～12月	90	15,388	1	7	0	0	0	8
		生卵+塩漬ラット&ヒヨコ		15	1,440	2	0	0	0	0	2
	Doc型	生卵+塩漬ラット&ヒヨコ		15	1,440	0	1	0	4	0	5
	計				234	37,020	5	8	2	4	2

※CPUE は 100TD あたりの捕獲効率を示す。グアム型（生卵）及び Doc 型（生卵）の TD は 1 点検あたり 8TD 発生するものとした。

3-3. 拡散の防止及び分布調査

3-3-1. 州崎及び海邦町における捕獲作業

(1) 目的

これまでに行われた買取調査で、沖縄県の中中部地区（北谷町、嘉手納町、読谷市、沖縄市、うるま市）にはタイワンスジオが広く生息していることが確認されている（図 3-3-1.1）。分布域の中で、タイワンスジオが荷物に付随して他地域に運ばれる可能性が高い場所として、うるま市州崎及び沖縄市海邦町の埋立地に着目し、拡散防止対策を実施した。この埋立地は、平成 23（2011）年度の買取調査（環境省実施）でもタイワンスジオが記録されている。また昨年度、北九州で発見されたタイワンスジオがこの埋立地内から運ばれた可能性がある事例もあり、特に拡散防止の対策が必要とされる地域である。

今年度は、この埋立地内におけるタイワンスジオの分布状況を把握し、この地域からの拡散防止を目的として捕獲を実施した。

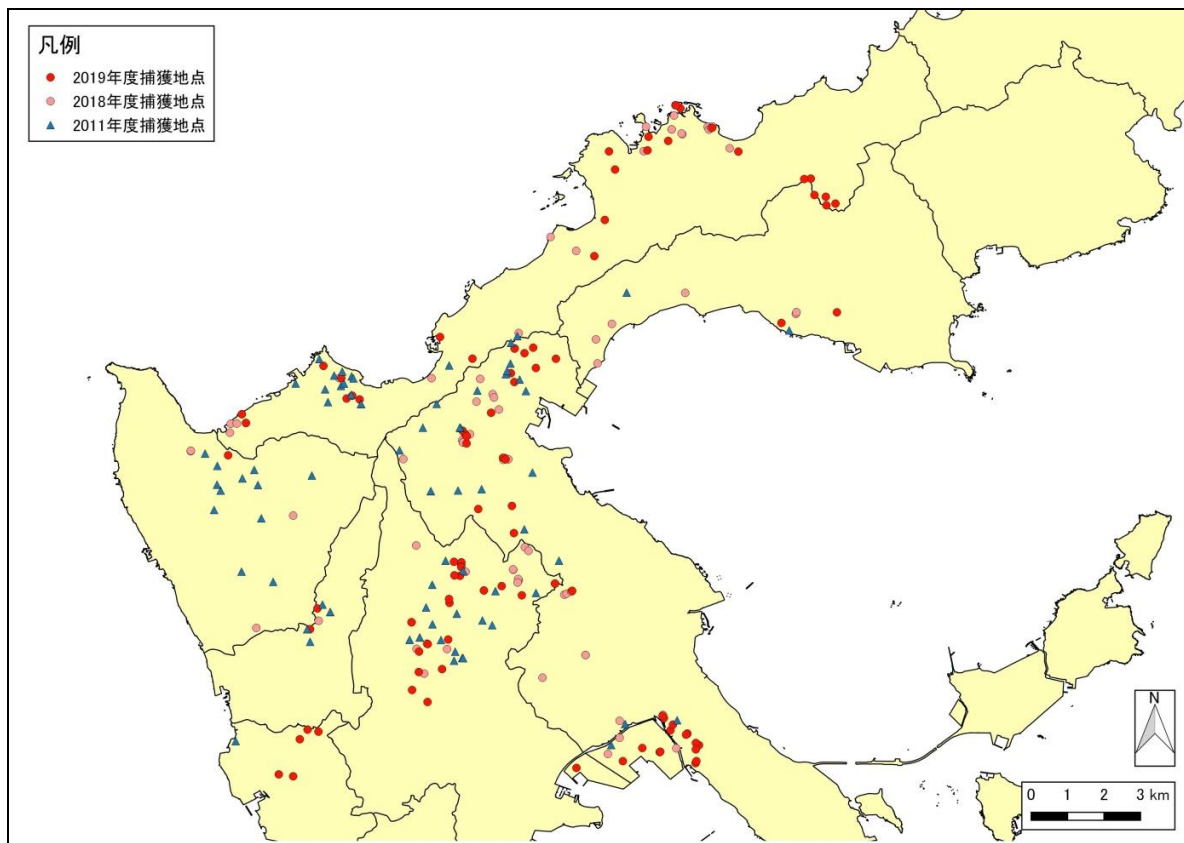


図 3-3-1.1 過年度の買取調査によるタイワンスジオの捕獲地点

(2) 設置地点

タイワンスジオの分布状況を把握するため、埋立地の広範囲にトラップを設置した。

今年度のトラップ設置予定台数は、1メッシュ（約 1km²）あたり 25 台、8メッシュの計 200 台であり、年間 6 回以上の点検である。期間を 2 期に分け、1 期当たり 102 台のトラップを稼働させ、延べ 204 台分のトラップを設置した。

(3) 調査方法

トラップはハブ型を用い、計 102 台を設置した（表 3-3-1.1）。

表 3-3-1.1 州崎及び海邦町におけるトラップの設置台数

設置場所	わな種	誘引餌	設置期間	設置台数
州崎・海邦町	ハブ型	ラット	5月～11月	102

トラップの点検頻度は 2 週間に 1 回とし、ラットの給水及び餌の補充、また点検時に捕獲されているへび類の記録・回収を行った。5～8 月を前期（6 回点検）、9 月～11 月を後期（6 回点検）として実施した。

設置地点は、公園、歩道等の街路樹下、水路沿い、物流が多いと想定される事業所内にトラップを設置した。また、設置環境は林縁、中・低木内とした。



図 3-3-1.2 州崎及び海邦町の埋立地における設置状況と環境

赤矢印：トラップ設置個所

(4) 結果及び考察

州崎及び海邦町の埋立地におけるヘビ類の捕獲結果を表 3-3-1.2 に示す。ハブ型を 17,042TD 設置し、タイワンスジオが 23 個体捕獲され、CPUE は 0.13 であった。また、他のヘビ類の混獲物としてハブ 1 個体、アカマタ 1 個体を捕獲した。

表 3-3-1.2 州崎及び海邦町の埋立地におけるヘビ類の捕獲結果

設置場所	わな種	誘引剤	設置期間	設置台数	TD	タイワンスジオ		タイワンハブ		ハブ		アカマタ		計	
						捕獲数	CPUE	捕獲数	CPUE	捕獲数	CPUE	捕獲数	CPUE	捕獲数	CPUE
州崎・海邦町	ハブ型	ラット	5月～11月	102	17,042	23	0.13	0	0.00	1	0.01	1	0.01	25	0.15

全捕獲数の 65%にあたるタイワンスジオが、埋立地の北側と東側の水路沿いで捕獲された。この水路の北側は、岩を積み上げた傾斜護岸であり、東側は川沿いに幅のある樹林が連なっており、タイワンスジオの生息に適した環境であった。このため、水路沿いに面した場所にある荷物の輸送を行う事業所は、タイワンスジオの拡散リスクが高いと考えられる。

月別に見ると、タイワンスジオは、6月に14個体、7月に7個体、8月に2個体捕獲され、CPUEはそれぞれ0.47(6月)、0.23(7月)、0.06(8月)であった。9～11月は捕獲されなかった。本地区におけるCPUEのピークは6月であり、恩納村(令和2～3年度)のピーク(7月)に比べやや早かった。8月以降にタイワンスジオの捕獲数が減少する点は、恩納村と同じであった。

次に、タイワンスジオの頭胴長などの測定値を表 3-3-1.3 に示す。

今年度、州崎及び海邦町の埋立地で捕獲されたタイワンハブは雄が 13 個体、雌が 10 個体であった。頭胴長は雄が 825～1443mm、雌が 825～1724mm であった。体重は雄が 137～654g、雌が 154～840g であった。肥満度は雄が 0.18～0.27、雌が 0.16～0.27 であった。

表 3-3-1.3 タイワンスジオの測定値（埋立地）

わな種	No.	捕獲日	地区	捕獲地点	性別	頭胴長 (mm)	尾長 (mm)	体重 (g)	肥満度 =体重/頭胴長 ³ (kg/m ³)
ハブ型	1	2021/6/3	海邦町	SU002	m	1090	324	275	0.21
	2	2021/6/3	海邦町	SU004	m	1443	370	532	0.18
	3	2021/6/3	州崎	SU038	f	1110	275	253	0.18
	4	2021/6/4	海邦町	SU058	f	1311	324	437	0.19
	5	2021/6/4	州崎	SU068	m	1255	323	393	0.20
	6	2021/6/4	州崎	SU077	m	825	231	137	0.24
	7	2021/6/4	州崎	SU081	m	1402	352	582	0.21
	8	2021/6/4	州崎	SU084	f	1323	330	607	0.26
	9	2021/6/17	海邦町	SU012	m	1095	282	278	0.21
	10	2021/6/17	海邦町	SU052	f	1248	310	443	0.23
	11	2021/6/17	海邦町	SU057	f	1724	406	840	0.16
	12	2021/6/17	海邦町	SU057	m	1293	351	404	0.19
	13	2021/6/18	州崎	SU072	m	1164	300	378	0.24
	14	2021/6/18	州崎	SU086	m	1288	329	470	0.22
	15	2021/7/1	海邦町	SU055	f	1445	362	509	0.17
	16	2021/7/2	州崎	SU086	f	994	251	194	0.20
	17	2021/7/2	州崎	SU096	m	1396	353	538	0.20
	18	2021/7/16	州崎	SU072	m	1290	334	482	0.22
	19	2021/7/16	州崎	SU072	f	1293	343	542	0.25
	20	2021/7/16	州崎	SU072	m	1350	350	654	0.27
	21	2021/7/29	海邦町	SU004	m	1165	311	313	0.20
	22	2021/8/12	海邦町	SU004	f	825	218	154	0.27
	23	2021/8/13	海邦町	SU071	f	1346	348	557	0.23

表 3-2-4.4 令和 3 年度のタイワンスジオの測定値のまとめ

区分	雌雄	頭胴長			体重			肥満度 = 体重/頭胴長 ³		
		平均 (mm)	最大 (mm)	最小 (mm)	平均 (g)	最大 (g)	最小 (g)	平均 (kg/m ³)	最大 (kg/m ³)	最小 (kg/m ³)
R3年度	全体	1247	1724	825	434	840	137	0.21	0.27	0.16
	雄	1235	1443	825	418	654	137	0.21	0.27	0.18
	雌	1262	1724	825	454	840	154	0.22	0.27	0.16

ヘビ類以外の混獲としては、ハツカネズミ類 1 個体、不明 3 個体が捕獲された。